

# 猫のごはんのあげ方&選び方とは?ごはんの量・あげる回数・ごはんを吐く場合の対処方法などの基礎知識をご紹介します

猫にあげるごはんについて、ごはんの量・あげる回数・吐いてしまった場合の対処方法など、知っておきたい基礎知識を詳しくお伝えしていきます。



## ドライフードまたはウェットフードは「総合栄養食」を選ぶこと

猫のごはんは、ドライフードでも、ウェットフードでも、猫の好みや飼い主の管理方法に合ったものを選びましょう。ただし、毎日与える食事の場合には、「一般食」ではなく、必ず「総合栄養食」を選ぶようにしてください。

## ドライフードのメリット

ドライフードとは、いわゆるカリカリとしたキャットフードのことを意味しています。ウェットフードと比べると日持ちがするため、保存しやすいのがメリットです。ただし、猫は食べ物を判断するときに、発するニオイを重視しています。そのため、たとえドライフードであったとしても、香りが維持できる開封2週間以内には与え切るようにしましょう。

## ウェットフードのメリット

ウェットフードは、ドライフードと比べて日持ちしないため、基本的には1~2回分の食べきりサイズを与えることになります。ウェットフードは水分が多いため、あまり水を飲まない猫や、泌尿器系の疾患のある猫にはおすすめです。また、ウェットフードは腹持ちが良いため、食いしん坊の猫にはおすすめのごはんと言えます。

## 「一般食」は主食抜きのおかずのようなもの

「一般食」とは、人間に例えるならば、おかずのようなものです。素材を煮ただけのウェットフードなどは、一般食にあたります。「一般食」は足りない栄養を補う分にはメリットがありますが、主食とするのは不向きです。

## 「総合栄養食」は栄養バランスのとれた完全食

「総合栄養食」はバランスの良い栄養が摂取できる、人間でいえばおかずとお米やパンが合わさった、完成された食事です。「総合栄養食」の表記は、ドライフード・ウェットフードともに、パッケージに記載されていますので、購入の際に確認するようにしましょう。

## 猫の餌は1日3~6回に分けて与える

猫のごはんは、子猫~成猫になる成長に合わせて、1日のカロリー摂取量を小分けにして与えるのがベストです。生後4ヶ月程度までは1日5~6食ほど、生後6ヶ月程度までは1日3~4食ほど、生後6ヶ月以降は1日2~3食ほど、分けてごはんを与えると良いでしょう。

## 水はいつでも飲めるように新鮮なものを常備

なお、お水については、食事の時以外でも、猫の喉がかわいたらいつでも飲めるように、ボウルなどに入れて用意しておきましょう。水は鮮度の良い、清潔なものを準備するように心がけ、長期間放置するのは避けてください。

## 猫のごはんの量はどれくらいが良い？

猫のごはんの量は、与えているフードのパッケージに記されている分量および摂取カロリー量を参考にしつつ、調整して与えるのがベストです。

## 基本的に同じ種類のキャットフードを与え続けても問題はない

「同じ種類の食事をずっと与え続けたら、いつか飽きないのだろうか」と心配になってしまう方もいるのではないのでしょうか。しかし、基本的に同じごはんを猫に与え続けても、総合栄養食であれば、健康上の問題はありません。ただし、味覚には個体差があるため、フードを変えることで嗜好性がアップして食欲が出る場合には、ローテーションでフードを変えるなどの工夫をしてあげると良いでしょう。

## 猫がごはんを吐いてしまうときはどうすれば良い？

空腹時に猫にごはんを与えた場合、すごい勢いで食べ切るものの、すぐに吐いてしまうことがあります。これは、空腹のお腹にいきなりたくさんのごはんを入れてしまい、胃がびっくりして拒否反応を起こしている症状です。このような症状が見られる場合には、餌を2～3回分の小分けにして、5～10分程度の感覚で、ちょっとずつ与えるようにしましょう。

**ノミ・マダニに関する最新情報をチェック！**

📍 LINE 公式サイト LINE@友達募集中 →

